

巖谷小波 いわたに 小説家、児童文學者、俳人。明治二年八月十八日東京生れ、昭和八年九月五日歿（一八七〇—一九三二）。本名季雄。別號サンのなみ、サナナミ、サンの波、サングナミ、なみ、一切理之助、一念詞狂共、沸小波、十亭主人、十亭主人漣山人、千里蘭、大江小波、大江小波山人、小波生、小痴、小痴居士、少年崖小波、岩川亮季（川上眉山合同）、岩谷豊樂大、巖谷漣、巖谷漣山人、己惚亭野呂毛、愛籟、戀川綾町、李腕白、林の小波、桑弓、樂大居、樂大居小波、漣、漣山人、澤村漣之助、鹿漣、笹波山人、行清、漣水生、金清、隔戀坊、黒樂天、S.T.等。書家巖谷一六の三男。獨逸協會學校等小學校。硯友社の一員として小説を發表し、のち童話に専心。日本民話と定著させ、口演童話を開拓した。明治期最大の児童文學者。また木曜會、白人會の主宰するほど俳人としても活動。

繪著書『初紅葉』（漣山人名、明治二十一年四月、二十六年春陽堂）、  
 『妹背負』（同、明治二十一年八月十一日皇國書籍店「新著百種」）、  
 『お八糸』（同、明治二十四年五月十五日春陽堂「文學世界」）、『新著百種・第七號』離れ鴛、朝顔、はイヤ、碧流（同、中村花渡、匿名氏合著、麗水生明治二十四年八月二十日皇國書籍店）、『猿蟹後日譚』（大江小波名、明治十四年十一月十日博文館「幼年文學」）、『當世少年氣質』（同、明治二十五年一月十七日博文館「少年文學」）、『友禪染』（漣山人名、



明治二十五年二月二十日春陽堂）、『秋桔梗』（菅薩中）（同、菅薩着山人合著、明治二十五年十一月二十日春陽堂）、『白春陽堂』（獨逸文壇）六大家列傳（内題「六大家

傳」同、霧山人共著、明治二十六年二月二十日博文館「寸珍百種」）、

- 『學園花壇』(同、合著、明治二十七年一月)、『春陽堂』、『燒火著』  
 (同、明治二十八年七月十二日春陽堂)、『麥わら浴』(同、明治一  
 十八年八月四日大阪・巖々堂)、『逢合傘』(陽交)、『松華庵主  
 人合著、明治二十九年四月十八日春陽堂)、『龍まくら』(同、合著  
 ・紅葉山人編、明治二十九年九月十二日春陽堂)、『俳諧論集』(校  
 訂、明治二十二年一月十四日博文館「俳諧文庫」)、『井伊掃部頭』  
 (明治二十二年二月二十一日博文館「少年讀本」)、『續俳諧論集』  
 (校訂、明治二十二年六月十八日博文館「俳諧文庫」)、『猿智慧小  
 僧』(大江小波名、編、水野年方畫、明治二十二年五月十七日博文館  
 「世界お伽噺」)、『俳諧文集』(校訂、明治二十二年六月二十日博  
 文館「俳諧文庫」)、『女波男波』(漣山人名、明治二十二年九月一  
 十日博文館)、『猿藤太郎』(編、TRANSLATED BY HANNAH RIDDELL、  
 明治二十六年十一月二十五日英學新報社藏版、博文館「和英  
 東京堂」對譯『日本昔  
 噺』)、『紅葉  
 讀本百人一首』(明治二十七年一月四日自刊、文祿堂書店  
 發賣)、『尾崎紅葉遺稿『病骨録』』(編、明治二十七年二月一日文祿堂  
 書店)、『少年白露戰史・第一編一開戦の巻』(附原國讀本卷の1)、『  
 (編、明治二十七年八月十五日博文館)、『家と女』(明治二十九年  
 一月一日隆文館)、『女子  
 文壇總覽文集一附錄大家文集』(共選評・編輯  
 局校訂、明治二十九年一月七日女子文壇社)、『樂天子』(明治四十  
 年九月一日金剛閣  
 松香館)、『通の話』(合著、明治四十年九月二十二日敬  
 文館)、『少年世界讀本・第六卷』(中央亞米利加各國)、『金子繁吉共  
 著、明治四十年十一月二十八日博文館)、『喜高尊官』(明治四十  
 年十一月二十八日合資  
 會社出版部)、『日本お伽物語』(明治四十五

年四月一日六合館)、『社少年白雲戰史』(編、大正二年二月十一日)

博文館)、『社活語八面子』(大正二年十一月十五日大日本婦科會)

『名家俳文集』(佐々醒雪共校訂、大正二年十二月二十六日博文館)

『俳諧叢書』(、)、『桃太郎主義の教育』(大正四年二月十五日東亞堂)

書房『縮刷名著叢書』(、)、『自と母と口』(大正五年二月二十日耕文

社)、『俳便覽俳通』(大正五年五月五日博文館)、『俳願のいふべき

(大正五年五月十日廣文堂書店)、『心のいそぎ』(合著・愛友會編、

大正六年十月一日明文堂)、『俳第一回兒童教養講習録』(本名、合著

・成澤金兵衛編、大正六年十月十五日兒童教養研究所)、『新日本見

物・臺灣樺太朝鮮滿洲青島之卷』(合著・金尾種次郎編、大正七年六月十五日金尾

文淵堂)、『俳壇名家書簡集』(合著、大正七年七月十八日新潮社)、

『千馬帖』(編、大正七年九月二十四日千里閣藏版)、『俳裕徳長者一

一名米安大明神』(大正八年十月二十八日博文館)、『俳名家書簡紅葉抄』

小波へ一附着山珍文』(編、大正九年十一月一日手紙研究会)、『熱

海と五十名家』(合著・齋藤和堂編著、大正九年十二月二十日講同・

富永寛明刊、精和堂發賣)、『小波世間斷』(大正十年六月八日日本

書院)、『俳小學校外自習書の友』(大正十年六月十五日阪博多成象堂・東京

成象堂)、『俳旅行山から海』(大正十年八月十五日博文館)、『俳新し

い樂々手』(大正十年九月十五日阪博多成象堂・東京成象堂)、『俳兒童

『お伽の姉ごん』(大正十二年五月二十日大阪・サザナミ會)、『少

年の頃・上巻』(合著・小野誠悟編、大正十四年四月二十日第一出版

協會『少年少女文學叢書』(、)、『日本實演童話集・I』(合著・日本

童話協會『蘆谷童話集』(大正十五年十二月二十日隆文館株式會社)、

『金色夜叉の真相』(所謂の副賞一の告白) (昭和二年十一月) 千八  
百黎明閣)、『私の今昔物語』(昭和二年十一月) 白草谷田大學出  
版部)、『日本模範童話選集』(公署・長沼依山編、昭和二年十一月  
二十五日同文館)、『俳諧七部大集』(伊藤松雪<sup>伊藤松雪</sup>・橋本小舸<sup>橋本小舸</sup>共編、輯校註・俳文學  
大系刊行會、昭和九年七月十五日大阪・大文館書店)、『百人集』(合  
著・加藤澤水編、昭和九年九月五日百人會)、『大語體』(名義、編  
卷一・昭和十年四月二十日、卷二・五月二十六日富山房、木村小舟編  
・巖谷榮)、『兵編』、『羊大鼓』(昭和十七年八月十日)、『新潮社』(日本  
童話名作選集)、『桃太郎(主長)教育新論』(巖谷榮編、昭和十  
八年七月二十五日文林堂及魚房「及魚房良書」)、『小波世界お伽噺  
』(小國民版(支那篇)) (巖谷榮編、長谷川和夫編、昭和十八年十一月十日生活  
社)、『明治のお伽噺』(桂舟畫・木村小舟編、昭和十九年七月十日  
小學館)、『お伽丸』(小波童話集) (昭和二十四年二月二十五日)  
テネ出版社)、『お伽丸の草紙』(巖谷榮)、『解説』(昭和二十四年十一  
月) 二十五日小峰書店「日本童話小説文庫」(等)。  
文獻、巖谷八四著『波の聲』(お伽丸) 巖谷小波伝 (昭和四十九年十一月十

日新潮社「新潮選書」(等)。